

日台サプライチェーンシンポジウムと台湾出張

文責：新潟大学経済科学部助教 曾國哲

3月10日（金）午前、台湾国立台中市台中科技大学にて、「日台サプライチェーンシンポジウム」が開催されました（図1）。国立台中科技大学情報・流通学院と国立彰化師範大学企業管理系が主催されました。新潟大学アジア連携研究センター附置・中小企業ナレッジネットワークセンターセンター長の有元知史准教授と連携教員の曾國哲助教が参加しました。

開会挨拶は、国立台中科技大学情報・流通学院院长の黄秀丽教授と国立彰化師範大学企業管理系の前系主任黄明祥教授にいただきました。特別講演にて新潟大学の有元知史准教授が「中小企業ネットワークにて中核的な役割を担うのは誰か？」をテーマとしてご講演され、曾國哲助教が通訳しました（図2）。その後、国立彰化師範大学企業管理系の白凡芸教授が「新型コロナウイルス下の自転車サプライチェーンにおける挑戦と対応」をテーマとして講演していただき、国立台中科技大学情報管理系の連俊璋教授が「台湾自転車産業におけるサプライチェーンのレジリエンスに関する分析と議論」をテーマとして講演していただきました。また、産学連携として、和泰汽車股份有限公司の許育彰副理は「台湾TOYOTAのパートサプライチェーンの実務経験」を講演していただきました。

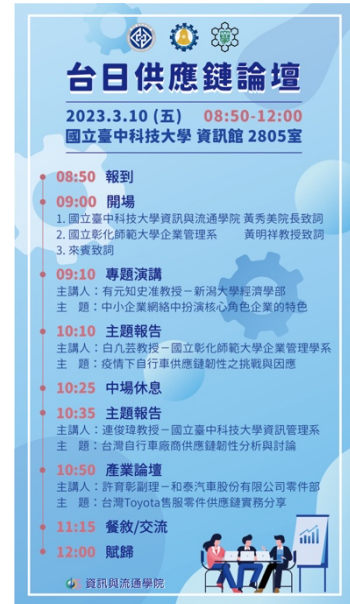


図1 日台サプライチェーンシンポジウム



図2 新潟大学の有元知史准教授のご講演

シンポジウムの他に、大学訪問、大学院特別授業、企業訪問を行いました。シンポジウムの前日の9日の午前に国立彰化師範大学管理学院に訪問し、呉信宏学院長、財務金融技術系主任の林逸程教授、企業管理系の前系主任黄明祥教授、企業管理系の白凡芸教授が接待してくださいました。新型コロナウイルスでの大学生活や授業方式、これからの学術交流について色々意見交換をしました（図3）。9日午後に、自転車的高级自転 OEM の明係集团（AXMAN）に企業訪問しました。シンポジウムの10日のお昼に、台湾台中市巨大機械に企業訪問・自転車文化館に見学しました（図4）。巨大機械の企業訪問後、国立彰化師範大学企業管理系大学院IMBAで、研究方法論やテーマ選別などの特別講義を行いました。



図3 左4番目が呉信宏学院長、左3番目が林逸程教授、左2番目が白凡芸教授、左1番目財務金融博士課程学生、右4番目が有元知史准教授、右3番目が曾國哲助教、右2番目が黄明祥教授、右1番目が連俊瑋教授

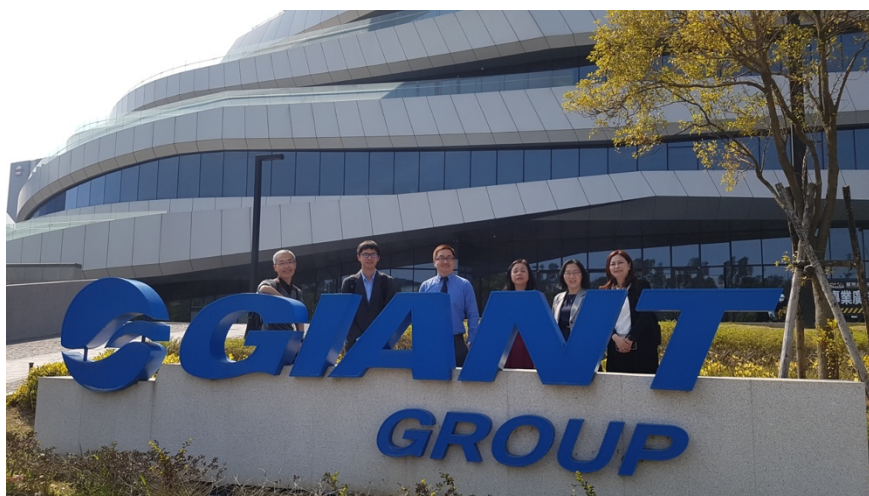


図4 台中市巨大機械（GIANT 自転車）の本部に企業訪問と自転車文化館の見学